

競技注意事項

2026 名古屋地区通信陸上競技大会 2・3日目

1 本大会は2026年度日本陸上競技連盟競技規則および本大会要項によって実施する。

2 アスリートビブスについて

- (1)ユニホームの胸、背に確実につける。
- (2)走高跳、棒高跳は胸または背につけるだけでよい。
- (3)走幅跳、三段跳は胸だけでもよい。
- (4)トラック競技の800m以上の種目に出場する競技者には、写真判定用の「腰ナンバー標識」を配付する。ランニングパンツの右横や後方に、そのままの大きさと明確に数字が読めるようにつける。(100mから400mまでは腰ナンバー標識は付けない)
- (5)腰ナンバー標識をフィニッシュ後、直ちに指定の場所に返却する。

3 ウォーミングアップについて(入場は競技者のみ)

- (1)ウォーミングアップとして
バックストレートを競技会の支障のない範囲で使用できる。また、7日(日)の春日井会場での試合のみ、競技場東側の多目的広場も使用できる。(多目的広場はスパイクでの使用は禁止とする)
- (2)投てき種目・跳躍種目は、競技開始前に各ピットで競技役員の指示により行う。
- (3)リレーのウォーミングアップにおいて靴やバトンをダッシュマークとして使用しない。

4 招集について

- (1)招集所は、知多会場では第2コーナー付近(器具庫内)に設ける。
春日井会場では第1コーナー付近(器具庫内)に設ける。
- (2)招集の受付は本人が行い、時間に遅れたものは棄権とみなす。
- (3)招集開始時刻及び招集完了時刻は、当該競技開始時刻を基準とし、次のとおりとする。

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	40分前	20分前
フィールド競技	50分前	30分前

- (4)リレーのオーダー用紙は、1組の招集完了時刻の60分前までに招集所に提出すること。オーダー用紙は招集所に準備してあるものを使用する。

5 競技場の使用及び入退場について

- (1)選手のみ入場できる。保護者や選手以外はスタンドを使用し、競技場内への入場を認めない。
- (2)選手の入場については、競技場内混雑による接触事故防止のため、以下の条件を設ける。
 - ① 入場は競技役員の指示に従い行うこと。
 - ② 知多会場では、南側出入り口(第2コーナー付近)により入場することができる。
 - ③ 春日井会場では、東側出入り口(第2コーナー付近)により入場することができる。※両会場とも、スタンドから競技場への入場を禁止する。

6 レーン順・試技順について

トラック競技のレーン順及びフィールド競技の試技順は、プログラムの数字で示す。

7 競技について

- (1)トラック競技について(すべてタイムレース)
 - ①すべて写真判定装置を使用する。
 - ②本大会のスタート動作における競技規則については、国内ルールを適用する。
 - ③レーンで行う競技においては、欠場者のレーンは空ける。
 - ④短距離種目では、競技者の安全のため、フィニッシュライン通過後も割り当てられたレーン(曲走路)を走行して止まる。

(2) フィールド競技について

- ①長さを競う種目はトップ8を行う。
- ②フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従う。
- ③フィールド競技で、助走路に使用できるマーカーは主催者が用意したマーカーを2個まで置くことができる。また、サークルから行う投てき競技は、マーカーを1個だけ使用できる。
- ④棒高跳、投てきの滑り止め（炭酸マグネシウム等）は個人のものであれば使用してもよい。
- ⑤三段跳の踏切版は、男子10m、女子8mで行う。※当日変更する場合がある。

(3) 競技者は、勝手に競技場所を離れること、ビデオ装置・レコーダー・ラジオ・CD・MD・トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内に持ち込むことは禁止する。ただし、フィールド種目に出場している競技者が、当該競技者に代わり競技区域（TR6.1〔注意〕参照）の外にいる者によって録画された試技の映像を見ることができる。その録画再生機器や録画映像は、録画映像を提供する者のすぐ近くの位置であれば競技区域内に持ち込むことが認められる。

（競技規則 TR6参照）

9 走高跳・棒高跳のバーの上げ方（ただし、天候等の状況により変更することがある。）

跳躍競技	1	2	3	4	5		
男子	走高跳	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	以後5cm、1m70以後3cm
	棒高跳	2m20	2m40	2m60	2m80	3m00	以後20cm、3m20以後10cm
女子	走高跳	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45以後3cm
	棒高跳	1m80	2m00	2m20	2m30	2m40	以後10cm

※練習の高さについては当日設定する。

※競技者の状況により変更する場合がある。

※1年走高跳のバーの上げ方は、当日設定する。

10 競技用器具について

競技に使用する器具は、すべて主催者が用意したものを使用する。

ただし、棒高跳用ポールは、個人所有のものが使用できる。

11 競技用靴について（競技規則 TR5参照）

スパイクピンの長さは9mm以内とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以内とする。スパイクピンは先端近くで、少なくとも長さの半分は4mm四方の定規に適合するように作られていなければならない。なお、スパイクピンの数は11本以内とする。

12 表彰について

各種目（OP種目を含む）の1～8位は表彰状を授与する。表彰状は、各所属の代表者が競技会終了までに本部付近に受け取りに来る。

13 その他

- (1) 氏名・所属・ナンバー等の間違い、訂正があれば本部に申し出ること。
- (2) 競技場に商品名のついた衣類・バッグを持ち込む場合は、競技規則に準ずる。
- (3) 貴重品類は、各自で保管する。万一の事故があっても、責任は負わない。盗難に注意すること。
- (4) 応急処置を必要とする事故が生じたときは、**医務室において処置を受ける。なお、応急処置後の治療費は、本人負担とする。**
- (5) カメラ、ビデオ等の撮影は、出場の団体、学校関係者に限る。